
これでも元セイバー（補欠）でした……

風流

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

これでも元セイバー（補欠）でした……

【Zコード】

Z8359Y

【作者名】

風流

【あらすじ】

ある日、アニメイトで約束された勝利の剣のレプリカを衝動買いしてしまった俺は眩い光に呑み込まれる。そして、目を開けるとそこには真っ黒なコートを着たオッサンと銀髪の超絶美女。さらに隣には……

現在と過去を織り交ぜながら物語は進んでいく。

？？これでも元セイバーでした……補欠みたいな扱いだつたけど（遠い目）

第一話　　再会（前書き）

アニメ見て、原作読んだら書きたくなつてしまつた……駄文ですが
生暖かく見守つてくださいると嬉しいです！！

第一話　　再会

吹き荒れる吹雪に覆われる大地。

針葉樹林の森に囲まれたその場所には古城が存在した。

このご時世に城つて……（笑）と鼻で笑われるはずのそれは、しかし実際に見た者に一種の恐怖すら与えるほどの豪奢なオーラを放っていた。

そもそも、こんな常冬の氷点下を下回る大地に住み着く人間は普通ではないだろう。

そう普通ではない

アインツベルン家。千年もの間、叶わぬ悲願を成就するためにはその場所に住み続ける魔術師　いや、数十年ですら劣化するであろう集団の意志を千年という長い時の中で一度も揺らぎなく突き進んできた彼らはすでに怪物と呼ぶに相応しいだろう。

そんな魔の領域ですら突破した者達は長い時の中での願い叶えるためにある儀式を行つてきた。

聖杯戦争。

万物の願いを叶える願望機『聖杯』を手に入れるための争い。しかし、この『聖杯』はかのキリストが最後の晩餐にて弟子達に自分の血としてワインを注ぎ、振る舞つた聖杯ではない。

200年前、アインツベルン、マキリ、遠坂の三家がそれぞれの思惑から協力したことでの始まり、失われた第三魔法『魂の物質化』^{『天の杯』（ヴァンス・ファイール）}の再現の為に用意された贋物の聖杯である。

それを7人のマスターがサーヴァントを召喚し、霸権を競い合い、手に入れるのだ。

そして、60年周期で行われてきた聖杯戦争は5回目の戦い兆しを

見せ始めていた。

外界は凍てつく吹雪。

礼拝堂と思しき部屋を照らすは蠟燭の光のみ。そんな中に1人の少女が居た。白銀の髪は薄暗い部屋の中でも悠然と輝き、双方の紅い瞳はルビーのようだが、しかし、何処かドス黒い狂気を孕んでいた。幼い身体を跪かせて雪のように白い肌をした手を胸に当てている。そして、その手の甲には赤い模様が刻まれていた。

そんな少女の前には水銀によって描かれた魔法陣？？その中心には雪の結晶を模した黒い何かが置かれていた。

少女の透き通るような美しい声が礼拝堂に木霊する。

「告げる？？」

それに呼応するかのように左手の模様が輝き始める。魔力の奔流が魔法陣を中心に吹き荒れる中、少女は狂氣の呪文を紡ぐ。

「？？されど汝はその眼を混沌に纏らせ侍るべし。汝、狂乱の檻に囚われし者。我はその鎖を手繰る者？？」

自身の魔術回路が蠕動する悪寒と苦痛に苛まれながらも決して詠唱を止めようとしない。

「？？抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ？？？」

その瞬間、目も開けられない程の閃光が部屋を呑み込んだ。流石の少女もこの光には耐えられず目を覆いざるを得なかつた。どれ程の時間が過ぎたかわからない。

数秒かもしれないし、数分、數十分かもしれない……少女は恐る恐

るといった感じで目を開ける。

この世ならざる場所との繋がりである魔法陣……そこから溢れ出した残光の中に確かにソレはいた。

漆黒の影にその身を隠し、双方の瞳からは少女よりも禍々しい紅い光を放つ化物が？？

「?????ツー！」

その慟哭はアインツベルンの古城だけではなく、吹雪が吹き荒れる大地まで揺るがした。

第一話　　再会（後書き）

プロローグ兼五次（現在）の回です。

バーサーカーはヘラクレスじゃありません。

小説の題名からして誰だかわかつちゃいますよね。

ちなみに、詠唱つて魔術師個人によつて違うと何かで読んだ記憶があるのですが、狂化させる際のやつはどうなんでしょう？

次回は四次（過去）の話です。ややこしくて申し訳ないです……それでも面白いと思って頂けるなら幸いです。

感想など書いて頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8359y/>

これでも元セイバー（補欠）でした……

2011年11月24日22時56分発行